

愛知県政150周年連携イベント

# 足元を見つめ、世界を想う

私たち一人ひとりの想像力と可能性

「愛知の歩み」と「郷土への愛着や誇り」に思いをはせる県政150周年の趣旨を愛県大としてとらえ返し、地方から世界を見つめ続ける作家と、世界から地方を見つめてきた研究者による珠玉の講演です！

◆日時: 2022年12月11日(日) 12:30~15:40  
(12:00~会場、オンラインともに入室可)

◆会場: ウィンクあいち 小ホール2 (先着200名)  
オンライン (Zoomウェビナー) 同時中継 (先着480名)

※申込方法 問い合わせについては裏面をご覧ください。

参加  
無料

## 講師

池澤 夏樹氏 (作家・詩人・批評家)

乱世だからこそ  
知を愛する



ヨース・ジョエル氏 (高知県立大学教授)

《漂流礼讃》  
らいさん

—「はぐれ」の視点から地域と世界の歴史を考える



愛知県立大学  
Aichi Prefectural University

2022年は  
愛知県政150周年





申込URL



問い合わせURL

- ◆主催 愛知県立大学
- ◆申込方法 下記のURL又は右の二次元バーコードよりお申込ください。  
申込期限: 令和4年12月8日(木)  
申込URL: [https://zoom.us/webinar/register/WN\\_YvTn\\_CMARkmsgTJ382hCqg](https://zoom.us/webinar/register/WN_YvTn_CMARkmsgTJ382hCqg)
- ◆申込及び  
オンライン配信についての問い合わせ 木村情報技術株式会社 受付9:00~17:00  
問い合わせフォームURL: <https://3elive-inquiry.3esys.jp/> TEL: 0952-97-9510
- ◆講演内容についての問い合わせ 愛知県立大学 県大総務課 受付9:00~17:00  
問い合わせ先メールアドレス: [kendai\\_somu@puc.aichi-pu.ac.jp](mailto:kendai_somu@puc.aichi-pu.ac.jp) TEL: 0561-76-8811
- ◆アクセス ウィンクあいち JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分  
愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

## ◆講師

## 池澤 夏樹氏 (作家・詩人・批評家)

## 【プロフィール】

1945年北海道帯広市生まれ。

多くの旅を重ね、3年をギリシャで、10年を沖縄で、5年をフランスで過ごす。1987年に『スティル・ライフ』で芥川賞を受賞。その後の小説に『マシアス・ギリの失脚』、『花を運ぶ妹』、『静かな大地』、『アトミック・ボックス』など。詩には『池澤夏樹詩集成』、『この世界のぜんぶ』、『満天の感情』など。近著に黒田征太郎と合作の絵本『旅のネコと神社のクスノキ』がある。編集・編纂の仕事では『池澤夏樹=個人編集 世界文学全集』と『池澤夏樹=個人編集 日本文学全集』。

## 【講演のテーマ】

## 乱世だからこそ知を愛する

池澤氏には2017年に出版された『知の仕事術』という新書がある。これは、企業が自社の秘密を暴露するかのように「禁を破り」出された「技術論」だという。だからか、ただか、作家・詩人・批評家—それに翻訳家でもある—には収まらない池澤氏の素顔に触れられて、楽しい。そこで知る「解析的に本を読む」という池澤氏の魅力は、この世を脊椎動物に見立て、1本1本の骨を布置しながら世界動物の全貌を描き出していく技である。理工学部生時代に得た「仕事術」かと思いきや、地図好きの池澤氏が世界各地に赴き、時間の長短を問わず、その地を自らの足で踏み研磨されてきたものである。さらに近年では日本だけではなく、世界の文学作品をも相手取って全集に編み上げる。文理融合を一身に体現する異色の作家・池澤夏樹氏が、この世の乱れをどのように解析してくれるのか、期待は尽きない。見逃したくないのは、池澤氏が講演テーマにそっと添えた「知を愛する」のくだけた放つ優しさ—(愛知)に住まう人びとへの配慮だと思われる部分—である。きっと(愛知)だからこそ触れられる話に違いないのだろう。ただ、しかし、それ以上に私たちがつかむべきものは、池澤氏が「乱世」と「知を愛する」と表現する間に置いた「だからこそ」に込めた含意にこそある。

## ヨース・ジョエル氏 (高知県立大学教授)

## 【プロフィール】

1970年ベルギー生まれ。

1993年ルーヴェンカトリック大学卒業。2001年博士号(日本学)取得。オランダ国ライデン大学と岡山大学で、日本の思想と文化の歴史を研究したのち、2008年から高知市在住。自由民権運動の思想と文化史を中心に、日本と世界との関りを考え続ける。近年の仕事に、「Journal de voyage en Europe(1873年) du shâh de Perse [イラン国王の欧州歴訪(1873年)実記]に関する考察」『文化論叢』第9号(2021年)、「3500万人の末弟が残したもの—植木枝盛『民権自由論』(1879年)」井上次夫ほか編著『次世代に伝えたい新しい古典—「令和」の言語文化の享受と継承に向けて』武蔵野書院(2020年)などがある。

## 【講演のテーマ】

《漂流礼讃》  
らいさん

—「はぐれ」の視点から地域と世界の歴史を考える

現在、地方の大学教員であるヨース・ジョエル氏は、ベルギーで生まれ育ち、日本での留学を経て、両国を往来するなかで、日本の一つの地で生業を得た。土佐(高知県)に流れ着いた研究者である。彼の出身国ベルギーは、日本では実感をもって想像することが難しい複数の言語と異なる文化が共存する多言語・多文化の国家である。そのような多元性の養分を得たヨース氏の眼が、当然のように「一つ」の言語や文化で特徴づけられがちな日本に対して向けられるとき、その中にある実に多様な人びとや文化の豊かさを捉える。その眼はまた、人の呼吸がきちんと感じ取れる一つの地に足をつけながら、現にある国境のその先に、世界の人びとと結びつこうとする意思をもったものでもある。「漂流」を「礼讃」し「はぐれ」の視点を据える講演タイトルの表現には、越境と定住の経験と多様な人と文化の普遍的な性格を見逃さないヨース氏の、しなやかな感性が込められている。